

芦屋市議会議員

大原ゆうき

令和3年
3月定例会特集Blog ブログ、日々更新中!
<https://oohara-yuuki.blog.jp/>

大原 裕貴

@ooharayuuki

再度の予算修正。どうなるJR芦屋駅南地区再開発。

事業の経緯について

2017年3月	芦屋市都市計画審議会の同意を得て都市計画決定
2018年5月	兵庫県による事業認可
2018年6月	市議会による条例可決(全会一致)
2020年3月	再開発関連予算を削除する内容の修正が提出され、修正可決(賛成多数) 市長からの再議請求を受け、再議。再議の結果、都市再開発事業特別会計予算が否決(賛成少数)
2020年6月	事業費削減案を策定するための暫定予算が可決(全会一致)
2020年12月	事業費削減案(34.5億円減額)が提示。それを踏まえ当年度分7.7億円を含む当初予算案が提示。 一部議員より、「事業手法を変更せよ」という趣旨の修正案が提出され、修正可決(賛成多数) 市長からの再議請求を受け、再議。再議の結果、都市再開発事業特別会計予算が否決(賛成少数)

3月定例会で起こったこと

- 事業費を削減せよという議会のオーダーに答えた形になるため、再開発事業費を含む当初予算が提出される。
- 委員会審査の中で、一部議員から修正案が出される。
修正の内容は、再開発関連予算を削るもので、趣旨は「街路事業を主軸に計画を再検討せよ」とのこと。
- 本会議にて、賛成多数で修正可決。

今後の展開としては、事業手法を変更する場合のリスク、コスト等を洗い出した上での再検証を図るとのこと。

修正案に対する考え

以下のとおり、修正に伴うプラス要素よりも急転換によるマイナス要素の方が圧倒的に大きいと考えるため、修正案に「**反対**」しています。

1. 実現性の問題

- ・ 事業手法を変更したとしても、地権者からの用地取得が必要。
- ・ 長い時間をかけて協議してきた計画の変更後、用地取得交渉がスムーズに進むとは思えない。

2. 費用対効果の問題

- ・ 街路事業(ロータリー、再開発ビルを整備しない場合)の市試算額(市負担額)は67.9億円。
- ・ 街路事業(再開発ビルを整備しない場合)の市試算額(市負担額)は88.4億円。
- ・ 市が提案する削減案で進めた場合の市負担額は99億円。差額は小さく、計画変更のメリットが不明。

4. 潜在リスクの問題

- ・ 進行中の事業を止めることによるリスクが大きい(地権者からの訴訟やJR西日本への違約金など)

詳しくは↓



令和3年度予算。芦屋市の財政はどうか？

予算全体についての評価

	新年度 (R3年度)	前年度 (R2年度)	前年度比	
一般会計	423億9324万円	469億1000万円	▲ 45億1676万円	90.4%
特別会計	227億3124万円	236億6063万円	▲ 9億2939万円	96.1%
企業会計	144億5984万円	141億9128万円	2億6856万円	101.9%
財産区会計	1050万円	1150万円	▲ 100万円	91.3%
合計	795億9482万円	847億7341万円	▲ 51億7859万円	93.9%

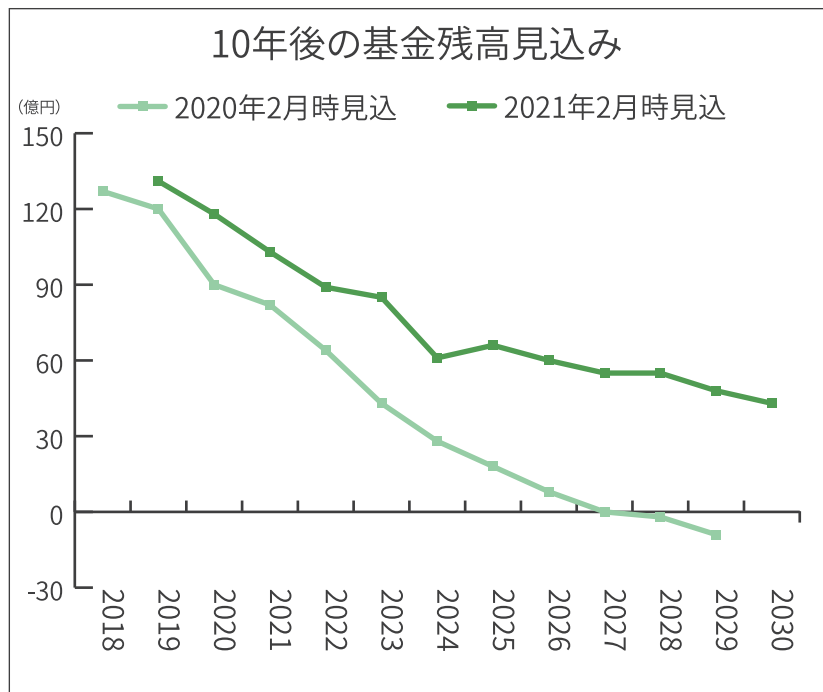
詳しくはこちら →



- 前年度と比較して、大きな減額となっている (6.1%減)。
- その要因は精道中学校建て替えや市立認定こども園の建設など、大きな事業が一段落したことやJR芦屋駅南地区の再開発事業の事業費が削られたことが大きい。
- その他の義務的経費や政策的経費について、必要以上に削っている訳ではないため、全体としては問題ないと判断している。
- ただし、新型コロナウイルス感染症の流行具合によっては別途支出が生じる可能性もあるため、慎重な財政運営が必要であることは間違いない。

10年後の財政状況は？

- 芦屋市では、長期スパンで安定した財政運営を担保するため、10年後の財政状況をチェックする「長期財政収支見込み」を毎年公開している。
- 昨年2月に公開されたときには、10年後の基金残高がマイナスになると話題に。
- 昨年2月の見込みを受け、テコ入れとして新行財政改革を前倒しで実施することを決定。その効果額で以って、10年後の安定財政を担保しようと考えている。



- 今年2月に公開された見込みだと、10年後の基金残高は43億円。
- 通常収入されるであろう経常的一般財源の規模を示す標準財政規模について、直近の数字 (R1) は234億2964万6千円。
- 一般的に、基金残高は標準財政規模の10~20%程度が適当と言われている。10年後の額は標準財政規模の約18%なので、適当な規模。
- この結果は行革というテコ入れの結果。行革の完遂が必要不可欠であり、楽観視はできない。
- ただし、自治体間競争が激化しているため、投資的経費や市民サービスを削減するだけのやり方では阪神間で埋没する。
- 「高級住宅街」という既存の強みを生かしつつ、阪神間で埋没しない独自の事業展開が必要と考える。

詳しくはこちら →



プロフィール

- 昭和59年(1984年)2月8日 芦屋生まれ (37歳)
- 伊勢幼稚園、シドニー日本人学校、関西学院中学部、関西学院高等部を経て関西学院大学経済学部を卒業。卒業後は民間企業でシステムエンジニアとして勤務。
- 平成27年、芦屋市議会議員選挙にて初当選。平成31年、再選(現在2期目)

出前報告会募集中!

お一人での座談でも、複数での報告会でもお気軽にお申し付けください!
希望日時と人数、希望テーマ(あれば)を添えて電話 or メールにてご連絡ください。